

9月例会レポート

2024/9/8

厳しい残暑の中を9月の例会に42名の会員が集いました。秋への歩みはゆっくりのようですが、会場の東京海洋大学近くの「みたてぼし」を渡ると運河を吹きぬけてくる風が感じられました。

主宰からは、本日付けの朝日新聞の歌壇俳壇欄にコラムが掲載されたとのタイムリーなお話がありました。猛暑日31日を記録した松山での俳句甲子園、その審査委員長のお一人として高校生・元高校生からたっぷりの熱量をもらい無事帰還？されたとのことでした。

また、毎日新聞には俳句甲子園の後のことを書いたコラムが10日付けで掲載される、2本のコラムを書き上げ俳句甲子園を2度体験したような8月であったとのご報告がありました。

前半は各自披講、互選高得点（10点句、6点句、5点句、4点句）の合評をしました。

後半は、主宰の選と講評です。☆、☆☆、☆☆☆の順に読み上げ、☆☆と☆☆☆の句



（彼岸花 府中市郷土の森公園）

について主宰の選評・作者の自句自解へと進んだ後に、出席者全員に対する句評がありました。ここでは、主宰が作者の意図を丁寧に汲み取られながら1句1句講評されてゆきます。どんな背景がありどのようなシチュエーションで句が成り立ったのか、このあたりが興味の尽きないところです。対面だからこそ味わえる学びの機会だと実感します。

主宰が声に出して読み上げ様々な角度から講評されると紙面から一句が立ちあがり、映像が結ばれてゆきます。

その後、全員の句の講評がされました。作者一人一人の思いに耳を傾けつつ、添削を交えながらの指導がぴったり予定の 16:30 に終了しました。

主宰の講評からいくつかのポイントをご紹介します。

- ・だれの記憶にもあるような先行句がある場合は
- ・取り合わせの句について
- ・韻を踏んでリズムや響きを
- ・動詞を減らすには
- ・三段切れの句は
- ・季語の広がり
- ・切れ字をどのように使うか
- ・歴史的仮名遣いについて



蕎麦 昭和記念公園

事務局から

- 10月例会は10月13日第1回青地巡礼吟行として開催します。11月例会は11月10日東京海洋大学です。
- 令和7年度の会員資格更新のアンケートがまだの方は更新手続きをお願いします。
- 令和7年度会費の振込は令和6年10月7日・月曜日までをお願いします。

昨年9月カウントダウン句会がスタートし青麗が産声を上げてちょうど1年、着実に歩みを進めすこやかに伸びていることを感じます。

立ち上げから駆け抜けてこられた主宰をはじめスタッフの皆さまありがとうございました。

来年度に向けますます期待のふくらむ青麗です。

文責：藤原尚子、写真提供：智久薫子